

# 同和問題・人権問題啓発標語、

## 作文の入選作を決定



### 作文の部



#### 【特選】

#### 「人間らしい生き方」

岩美西小五年 澤 鈴彩

岩美町では、同和問題をはじめとするあらゆる差別の解決を図るための啓発活動の一環として毎年、同和問題・人権問題啓発標語及び作文を募集しています。作文の部で9点、標語の部で252点の応募があり、選考会の結果、次の作文9点、標語107点の入選作を決定しました。差別やいじめなど、日常生活や学校の中で考えるきっかけとなればと思います。なお、作文・標語作品集を各学校、中央公民館等にも配布しますので機会のおり是非ご覧ください。

岩美西小学校に石田さんご夫婦がこられました。石田雅男さんは、私たちと同じぐらいの時にハンセン病と診だんされ、「愛生園」に連れて行かれました。石田さんは、連れて行かれる時「一カ月ぐらいで治るから。」と言われていたので安心していただけそうです。本当の「愛生園」を知らずに。

愛生園に行く時の汽車は人間の乗る物ではない貨物列車で、砂を運んだりする汽車で、イス一つないものだったと言っておられました。愛生園に着くとそこは想像とはちがうひどい所でした。病人が病人を世話をする、かんごしもめつたに出来ない、来ても土足で上がって、人間あつかいされなかったそうです。私はそれを聞いて心がいたくなりました。話をしていた石田さんも悲しそうに、目、口調でした。でも石田さんはどんだん話を続けました。石田さんが愛生園にいた中で一番苦しかった事は、ハンセン病と診だんされた人はもう、ふるさとに帰れないということだったそうです。私もびっくりしました。一生、死ぬまで、愛生園ですこさなければならぬ

#### 【特選】

#### 「仲間の大切さと差別について」

岩美南小六年 田畑 美月

なんて、おかしいのではないかと思いました。けれど今は、プロミンというハンセン病を三日間で治す薬が出来、遠出してもよくなったそうです。楽しい事を話している石田さんの顔は笑顔でした。私もうれしかったです。石田さんは「あたり前の生活」が出来て、「人間らしく生きられることは、ぼく達にとってすごいこと。」と言っておられました。今、私達が出来たことは、ハンセン病についてもっと知りみんなに伝えることと、今のような生活ができることを感じやすることです。みなさんもいままでの生活をふり返って、まちがったことをしたり、言ったりしてないかふり返ってみてください。

私は、三つのことで仲間の大切さを知りました。一つ目は、部活のドッジボールです。私は三年生の時から入っています。ドッジボールは、仲間がいてこそできます。試合のときでも練習のときでも、いいプレーをすると、部活の仲間が「ナイスプレー!。」とか「ナイス!!」と言ってくれます。逆に失敗したり、上手くいかないプレーをしたときは「ドンマイ。」とか「おいしいー。」といってくるので失敗してもおちついてできます。仲間が私のミスをカバーしてくれて勝てるんだ